

岩手県第 7 6 回原状回復対策協議会資料

資料 1 ワーキンググループの活動状況について

ワーキンググループの活動状況について

1 概況

今年度第3回目の会合を平成31年3月4日（月）に開催した。普及啓発活動、植栽試験及び現場土地の利活用について、これまでの検討状況の確認及び今後の取組の方向性の整理を行った。

2 普及啓発活動関連（出前授業の実施）

(1) 実施概要

平成30年9月に県立福岡高等学校1年生158名、10月に同校定時制21名に対し、DVDの視聴と講義を内容とする出前授業を行った。

(2) 実施結果

第1回



第2回



受講した生徒計179名に対してアンケートを取ったところ、DVD、講義ともに約9割が「良い」という回答であった。一方で、ほとんどの生徒は不法投棄問題があったことを知らなかった。事案を知ることによって地域の環境を見直すきっかけとなっており、後世に伝える取組を継続する必要があることを強く感じた。来年度も継続開催するほか、他校においても同様の取組が実施できるよう働きかけを行っていく。主な意見及び感想は、以下のとおり。

分類	意見・感想の内容
認知	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちが生まれる前にこんな大きな問題があったことを初めて知った。 不法投棄された場所が二戸市ということは知っていたが広さに驚いた。 この問題は聞いたことがあったが規模の大きさに驚いた。
驚き 怒り	<ul style="list-style-type: none"> 150万トンものゴミが投棄されたことは想像がつかない。 DVDを見てすごく悲しく残念な出来事が起きてしまったと感じた。 自分たちの住むすぐ近くでこんなひどいことが起きていたことは悔しいし怒りを感じる。 不法投棄したことは許せないし税金から費用がまかなわれたことに怒りを感じる。 地方が首都圏のごみ捨て場になっていたのは悲しい。
安心 感謝	<ul style="list-style-type: none"> 封じ込めではなく全量撤去という選択をしたことが良かった。 不法投棄という負の遺産を残さず解決してくれたことに感謝したい。
不安	<ul style="list-style-type: none"> 投棄されたゴミの中に有害物質が入っていたことを聞いて怖いと思った。 まだ、地下水の完全な回復はされていないので不安は残っている。
教訓	<ul style="list-style-type: none"> 事件を若い世代にしっかり伝えていくことは良いことだ。 処理が大変だったことを次の世代に伝え風化させないことが大切 都会の恩恵を少しは受けている私たちも被害者とは言えないということに同感した。 「大きな負の遺産も次に生かしていける。」という言葉が心に残っている。

(3) その他

環境分野に関する人材育成、技術支援等を行う（公財）東京都環境公社において、産廃処理業者向けの講習会で事案の説明とDVD上映を実施いただいた。講習会には都内の60社・85名が参加したとのことであった。今後も機会を捉え、首都圏に対する周知を図っていく。

3 植栽試験関連

(1) 樹木の生育状況（写真）

5月 植樹1か月後



8月 土壌改良地区



8月 120センチ程のウルシ



12月 積雪直後



12月 落葉後のウルシの芽



2月 約40センチの積雪



(2) 評価及び今後の取組

排水性の向上のための地盤改良を行った結果、秋までに全量が枯死した昨年度と異なり、ウルシは冬を越すことができた。アカマツについては、冬期は積雪に埋もれた状態にあったと見られるが、融雪後に幹枝の折損被害等の確認を要する。ウルシやミズナラについても、施肥、病害虫防除等を行うことが考えられる。青森県における植樹の状況も参考に、不法投棄現場内における森林再生を進めるに当たり留意すべき条件を整理していく。

4 現場土地の利活用関連

検討ワーキングでは、不法投棄現場の利活用策に関し、これまで森林再生、花畑、イベント会場及びエネルギー産業誘致の4つの方向性を提案し、事務局に対して実現可能性の検討を求めている。不法投棄現場には、水処理施設（旧破碎・選別施設）の建屋のように有用と思われる物件や、傾斜地や窪地などの複雑な土地条件があるため、民間事業者や専門家の意見も聞きながら、検討ワーキングで長期的な視点で活用策を検討していく。